

新耐震木造住宅検証法の対象となるかのチェック

1

昭和 56 年 6 月から平成 12 年 5 月までの間に建てられた木造住宅ですか？

- はい（建築年月：昭和・平成 年 月）
 いいえ

昭和 56 年 6 月から平成 12 年 5 月までの間に建てられた木造住宅を対象としています。

2

ざいらいじくぐみこうほう

在来軸組構法の住宅で基礎がコンクリート造ですか？

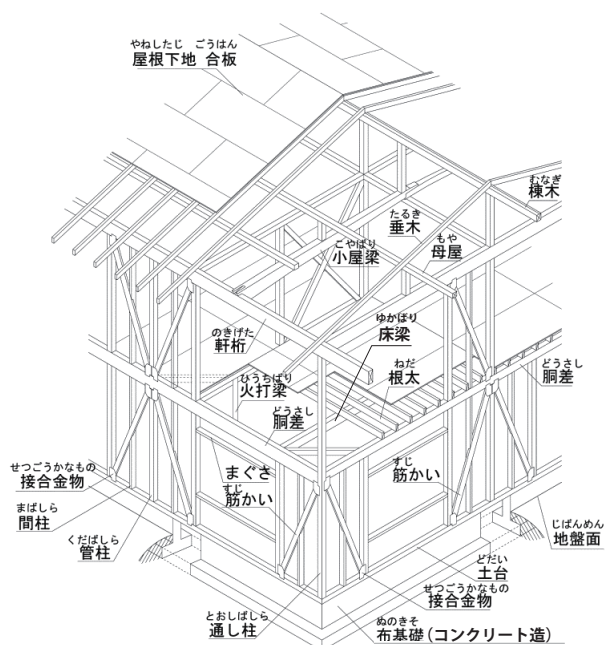
- はい
 いいえ（よくわからない・基礎がコンクリート造ではない）



在来軸組構法の家の例

在来軸組構法とは

右の図のように木製の柱（10cm 程度角）・はり等（土台、胴差、軒桁など）と筋かいの立った壁で家を組み立てる一般的な建築方法です。柱と柱の間隔は 90cm 程度から 180cm 程度で配置されています。天井裏や床下をのぞくと、柱を確認することができます



3

平屋建て、または 2 階建てで、全ての階が木造ですか？

- はい（平屋建て・2 階建て）
 いいえ（3 階建て・1 階が鉄筋コンクリート造または鉄骨造）

新耐震木造住宅検証法の対象となるかの確認

すべて「はい」の場合は、新耐震木造住宅検証法の対象となりますので、次頁のチェックに進んでください。

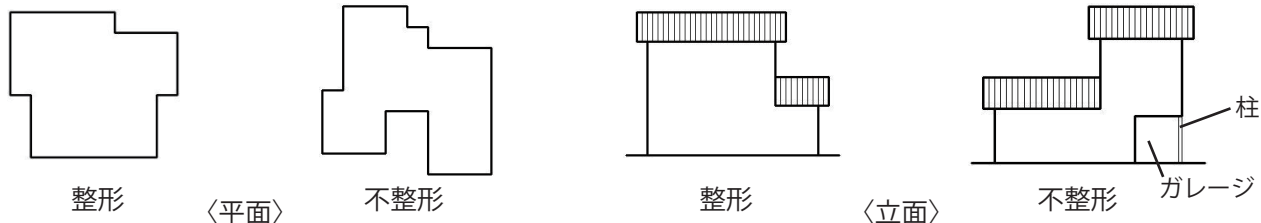
ひとつでも「いいえ」がある場合は、新耐震木造住宅検証法で耐震性を確認することはできません。耐震性に不安があり、確認をしたい場合には別途専門家にご相談ください。

「所有者等による検証」

チェック1 平面の形状、立面の形状は整形ですか？

- はい（比較的整形です）
- いいえ（不整形・よくわからない）

以下の図を参考に、平面・立面の形状が整形か確認してください。
1階がガレージなどで、2階が飛び出ているような形状は不整形とします。



チェック2 柱とはりの接合部に接合金物が使われていますか？

- はい（接合金物が使われている）
- いいえ（接合金物が使われていない・よくわからない）

○接合金物の例

接合金物は以下のような金物です。（下の図は柱の下部ですが、柱の上部にも同様に金物が使用されます。）
かすがいや釘打ちのみの場合は接合金物に該当しませんのでご注意ください。

かど金物 CP・L	かど金物 CP・T	山形プレート VP、VP2	かすがい

図面から接合金物が確認できる場合もありますが、確認できない場合には、天井裏や床下からのぞいて、柱とはり等の接合部に、接合金物が使われているかどうかを確認してください。（P.7 参照）

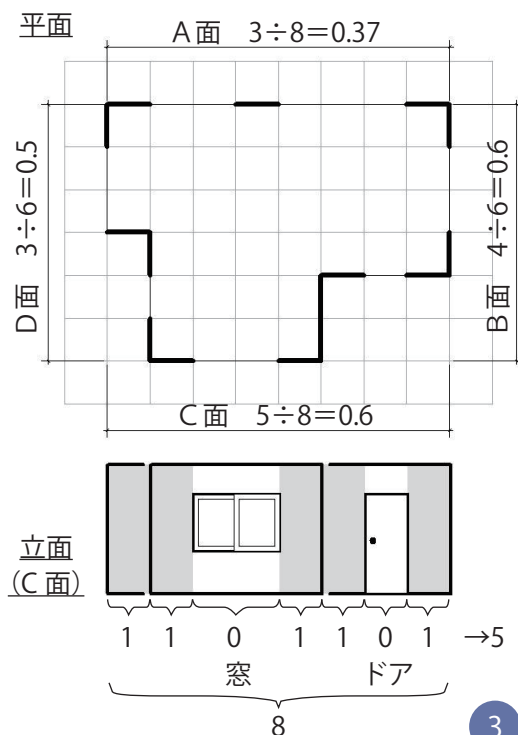
チェック3 1階の外壁面（4面）で、窓やドアなどの開口のない壁の長さの割合は0.3以上ですか？

- はい（すべての面で0.3以上である）
- いいえ（ひとつの面でも0.3未満がある・よくわからない）

○計算方法

1階の外壁面について4面とも個別に計算します。
窓やドアなどの開口のない壁（右の図のグレーの部分）の長さの割合
(窓やドアなどの開口のない壁の長さ／壁の長さ全体) ≥ 0.3

右の例は、A面が最も低い値となりますが、窓やドアなどの開口のない壁の長さの割合は全ての面で0.3以上が確認された例です。



チェック4 劣化のチェック

以下のイ～ホの5項目について、写真を参考に点数を付けてください。

イ. 外壁は健全ですか？

- 1点 ひび割れや剥落、水浸み痕、こげ、腐朽などが全くない。
あるいは、定期的にメンテナンスを行っている。
- 0点 ひび割れや剥落、水浸み痕、こげ、腐朽などがある。



外壁のひび割れ・こげ



健全な外壁（ひび割れ等がない）

点

ロ. 屋根は健全ですか？

- 1点 瓦やスレートが健全で、棟や軒がまっすぐで波打ったりしていない。
あるいは、定期的にメンテナンスを行っている。
- 0点 瓦やスレートが割れたり、棟や軒が下がったり波打ったりしている。



健全な瓦屋根

点

ハ. 基礎は健全ですか？

- 1点 ひび割れが無く健全である。
あるいは、定期的にメンテナンスを行っている。
- 0点 ひび割れが散見される。



基礎のひび割れ

点

ニ. 居室や廊下の床は健全ですか？

- 1点 傾斜が無く、大きなたわみや振動が無い。
あるいは、リフォームを行っている。
- 0点 傾斜がある。または過度のたわみや振動がある。

点

ホ. 浴室周りはどのような作りですか？

- 1点 ユニットバス。あるいは、
リフォームを行っている。
- 0点 タイル貼りなどの在来浴室。



ユニットバスの例

点

以上、5問の合計点数を記入してください。

合計点数	点
------	---